

特集

想起できるかが分かれ道！ 知っておきたい母体合併症

企画者のことば

桑原慶充*

周産期の合併症には、発症頻度が低くても母児の予後に深くかかわる特有の疾患が存在します。一部の母体合併症は極めて進行が早く、早期より対処しなければ短時間に母児の生命が脅かされることになります。また、妊娠継続の可否や周産期予後に直接関連するため、過少にも過大にも評価できません。こうした症例は日常的に経験するものではないため、いざ遭遇した際に担当医が鑑別疾患として想起させるかどうか分かれ道となります。一方で、現場の臨床的判断は経験に基づいてなされることが多く、馴染みの薄い疾患を想起することは必ずしも容易ではありません。そのため、発症頻度の少ない重要疾患については、折に触れて情報を

アップデートし、引き出せる知識として定着を図っておきたいものです。

そこで本特集では、産科医が遭遇する可能性のある、重篤な母体合併症を広く取り上げ、病態から疾患を想起するポイント、その後の実践的対応についてエキスパートの先生方に、解説していただきました。特集内で取り上げた重篤性の高い母体合併症は、産科婦人科診療ガイドライン産科編のCQ506“まれではあるが妊産婦死亡を起こしえる合併症は？”で挙げられている疾患の大部分を網羅しています。そちらも併せてご参照の上、明日からの産科診療に少しでも安心感を持って臨んでいただければ大変幸いです。

*Y. Kuwabara 日本医科大学産婦人科